

令和4年度 授業評価アンケートに関する
自己評価報告書

令和4(2022)年9月
西九州大学

◆授業評価アンケートの活用

視点① 学生による授業評価アンケートの実施

視点② IR 業務を担当する者による分析

視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

1. 事実の説明及び自己評価

視点① 学生による授業評価アンケートの実施

授業評価アンケート実施の目的を「授業改善のための PDCA サイクルを機能させ、もって本学における教育の質の向上に資すること」と定め、19 年続けて実施している。また、授業評価対象科目は全科目に設定しており、昨年度は授業評価の実施期間を令和 3 年 7 月 9 日から令和 3 年 7 月 29 日(前期)、令和 4 年 1 月 5 日から令和 4 年 1 月 25 日(後期)に設定した。

アンケートは Web 上(学生ポータルサイト)で実施しており、「あなた(学生)自身の授業参加態度」について 5 項目、「授業内容・方法」について 8 項目、「教員の対応」について 4 項目、「総合評価」1 項目の計 18 の評価項目で構成されており、項目 19 以降は教員による自由設定項目となっている。

学生への実施依頼では、アンケート実施の目的を明示し、アンケート結果については学内外へ公表し学生へのフィードバックも行っている。

視点② IR 業務を担当する者による分析

授業評価アンケート結果を「学科別」「共通教育科目・専門科目別」に分類し、評価平均値をまとめた。授業の出席状況(質問項目 1)について、過去 3 年間の平均値を比較すると、令和 3 年度の数値は全学的に高い結果となった。特にスポーツ健康福祉学科、リハビリテーション学科作業療法学専攻(OT)及び子ども学科の評価平均値は過去 3 年の中で最も高かった。また、令和 3 年度のスポーツ健康福祉学科の出席状況は、前期が低かったものの、後期に改善していた。

シラバスの活用(質問項目 2)について、一部の学科を除いては評価平均値が低い傾向が数年続いている。教員によるシラバスの説明(質問項目 6)の評価平均値は、シラバスの活用(質問項目 2)の評価平均値と比較して高いが、学生はシラバスを活用していない現状にあると言える。シラバスを活用した学習方法を学生が正確に理解しているか明らかではないが、シラバスを用いて各授業における講義内容と目的をより丁寧に説明し、学習成果を高めることが求められる。

学生自身の総合評価(質問項目 5)について、健康栄養学科を除く全ての学科で前期よりも後期の値が高いことは評価できるものの、科目ごとの評価結果を見る限り、回答数や回答の極端な偏りが見られるため、評価の妥当性を欠いていると思われる。この点については調査方法の改善が必要となる。このことから、授業評価の結果や在り方と学修成果への接続を再検討し、教育の質向上に繋げたい。

視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

担当科目ごとの授業評価結果は、ポータルサイトにレーダーチャートで示されるように

なっている。教員は、「結果の分析と評価」及び「次年度に向けての取り組み」を必ず入力することになっており、評価が低かった項目の改善や反省点に対する取り組み方法等を明確にし、次年度以降の授業改善へ繋げる仕組み（PDCA サイクル）が構築されている。学生による「授業評価結果」、教員による「結果の分析と評価」及び「次年度に向けての取り組み」は、本学ホームページへ掲載されるほか、冊子化し図書館へ設置され、学内外へ公表するとともに学生へのフィードバックを行っている。

2. 改善・向上方策（将来計画）

本調査は本学の教育の質を向上させるために毎年実施しているものであるが、以下の点において、改善・向上が望まれる。

・授業評価アンケート実施科目の形態についての分析

本調査は毎年継続して実施することで経年比較や学習者の傾向などを読み取ることが可能である。しかし、近年実施しているオンライン授業やアクティブラーニング等の授業形態や開講日・時間といった背景を含めた分析が必要となる。授業形態が多様化していく中で教育の質の改善を図るために、授業評価と受講者の学習方法を踏まえた改善活動が求められる。また、アンケートの質問項目を変えずに実施している点は、見直しを検討する必要があるように思える。

・回答率を高めるための調査方法

報告書には記載がないが、昨年度の調査結果では一定の回答を得ることができた。その一方で、回答の精度を高める工夫が不十分であり、改善が求められている。学科や学年等による回答率の違いは本調査の正確性に疑念を抱かせてしまうことにつながりかねない。そのため、教員による働きかけや回答日の設定等の調査方法を各委員会において検討し、対応することを求める。

・評価結果の妥当性

授業評価結果の妥当性を欠くと思われる科目が散見される点について、回答率の低さ、評価疲れなどが考えられるため、対策を講じる必要がある。